

1. JAMA Ophthalmol. 2023 Feb 1;141(2):150-156.

Antidrug Antibodies to Tumor Necrosis Factor α Inhibitors in Patients With Noninfectious Uveitis

Sunil Bellur , Matthew McHarg, Wijak Kongwattananon , Susan Vitale, H Nida Sen, Shilpa Kodati.

PMID: 36547953

PMCID: PMC9936342

DOI: 10.1001/jamaophthalmol.2022.5584

TNF 阻害薬治療中には TNF 阻害薬に対する抗薬物抗体ができることが知られています。この論文は非感染性ぶどう膜炎治療における抗薬物抗体のレベルと血中薬物濃度や治療への反応性について報告されている論文です。非感染性ぶどう膜炎 54 症例（アダリムマブ 42 例・インフリキシマブ 12 例）における抗薬物抗体を検討したところ、インフリキシマブ投与例では抗薬物抗体が検出された症例はなく（これは少数例であったためと考察されています）アダリムマブ投与例では 35.7%で抗薬物抗体が検出されました。治療への反応性が良好である群で血中薬物濃度が高い傾向にあり、不良な群で抗体ありが多い傾向がみられました。また、抗体ありの症例は抗体なしの症例と比べて有意に血中薬物濃度が低かったこと、免疫抑制剤（特にミコフェノール酸モフェチル）を併用していた症例では併用していなかった症例に比べて血中薬物濃度が高い傾向にあったことなどが報告されています。日常臨床において血中薬物濃度や抗体が測定できるようになれば、その結果により薬物投与量を調整したり他剤の切り替えの目安にしたりすることで個々の症例に応じた治療に応用できる可能性を示したご報告だと思えます。現在のわが国のぶどう膜炎診療では使える生物学製剤もその投与量も限定的ですが、症例毎に消炎に必要な薬剤の種類と量は異なると思われるので様々な症例に対して幅広く治療を選択することが可能になれば理想的です。

（文責：近畿大学 岩橋 千春）